

常に「自分ごと」と意識させる不祥事防止 ～ 人を以て鑑となす ～

取組の内容

南相馬市立石神中学校

教職員に限らず、一般社会においても、残念ながら不祥事や事件・事故を伝える新聞記事やニュースは枚挙に暇がない。これらの記事等を目にしたとき、「なんてバカなことを…。」「またか…。」と『他人ごと』で通り過ぎてしまいがちである。しかしそれらの事例には、「一歩間違えばもしかしたら自分も…。」と我が身を振り返る要素が含まれていることが多い。そこで本校では、以下の2つの取組などを組み合わせることで『自分ごと』と意識させている。

① 「ちょっと立ち止まって。サービス倫理コーナー」の設置・活用

教職員が一日一度は立ち寄るであろう「湯茶コーナー」の近くに、「サービス倫理コーナー」を設置し、他山の石としたい新聞記事等の切り抜き等を掲示している。その際、気をつけていることは次の点である。

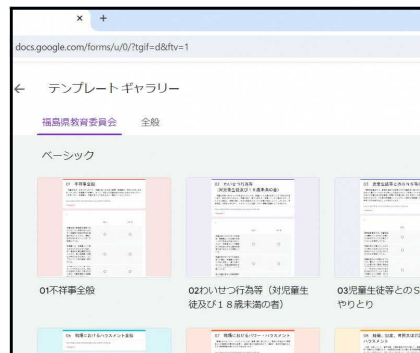
- ◆ タイムリーな内容のものを
- ◆ 自校の現状（ヒヤリ・ハット）に即した内容のものを
- ◆ 短時間で読めるよう要点には傍線等を
- ◆ 長期間貼りっぱなしにしない



② 「Googleフォーム」によるチェックシートの実施

前述の①で掲示した内容に関連することや時節柄意識させたいことについて、県教委作成の「不祥事防止チェックシート」を、次のような工夫をして実施させている。

- ◆ フォームは、県教委の「テンプレートギャラリー」にあるものを活用
- ◆ 「自由記述欄」を追加して実施
- ◆ 一斉メールでフォームを送信し、1週間程度の期間内に各自のタイミングで実施
- ◆ 特に意識させたい内容の場合は、職員会議内で時間をとって一斉に実施



成果と課題

- 「コーナー」にわずかな時間でも立ち止まって記事等を読み、同僚との話題にする職員の姿が見られ、意識化に役立っている。
- フォームに「自由記述欄」を設けると、ほとんどの教職員がフォーム実施後に感じたことなどを記入するようになり、「人を以て鑑となす」ことができている。
- マンネリ化すると意識が薄れるので、今後も工夫を加えながら実施していきたい。

職務を継続したいです。

男だから、女だから、と言う認識や意識を持たない。このくらいは言っても大丈夫だと勝ってにおも

生徒がいる時は、教室の入り口は開けておく。指導にあたる。

同僚性を活発にし、コミュニケーションを大切にする。コミュニケーションを大切にする。